

“スタイリッシュ&チャームングなゴルファー”を目指すアナタへ

2011年7月号 毎月5日発売 6月4日発売 雑誌第7号通巻14号

EVEN

毎月5日
発売!

For Stylish Golf Player
[イーブン] 2011/Vol.33

7  for tasty life

遂に完成!!
BRIEFING
X
EVEN
別注キャディバッグ
※詳しくはP146へ



選ぶの真実
シヤフト

特集
知ってるようで意外と知らない

特集
人気ブランドから高機能モノまで一挙紹介
夏の主役は
やつぱりポロ

小さくても存在感大きいのです
夏ゴルフを出し抜く
腕元のお洒落

“簡単ギア”の実力を検証
イージークラブでスコアアップ!?

定価 720yen

世界のインサイドロープから

文○小山武明 写真○田辺安啓 (JJ)

第14回

『The Open Doctor』 世界最強を決める舞台の コースデザイナー、リース ジョーンズ

幾多の名門コースの改造を手がける
ゴルフコースの名ドクターとは…。

タケ小山 (小山武明)

18年間、アメリカを中心にプロゴルファーとして活躍。帰国後もトーナメントに参戦しつつ、解説やInter FM「GREEN JACKET」(76.1MHz)のDJなども務めている

THE OPEN。それは全英オープンを目指すことは日本のゴルフファンなら誰しも、いや世界のゴルフファンなら誰もが知っている事実。最古のオープン試合なのだから「EPO」はたつた一つでなくてはならない。今回紹介するこの男は、自らのホームページでも「The Open Doctor」がニックネームと豪語する。ジ・オープン・ドクター？ 全英オープンの医者なのか、特別な開業医なのか？ よく理解できないだろうが、その人の名は、リース・ジョーンズ。ゴルフ界でジョーンズといえば球聖ホビー・ジョーンズ、あるいは泣く子も黙る米国ゴルフ場設計家の大御所ロバート・トレント・ジョーンズである。今回紹介するリース・ジョーンズは、何を隠そうそんな大御所設計家の息子なのだ。ちなみに兄のジョーンズ・ジュニアも存じの方も多しはず。そして今回紹介するオープンとは全英オープンではなく、全米オープンとなるのでご了承を。

今年の全米オープンは、米国名門の一つ、コングレッシュショナル・カントリークラブ。この開催コースの改造もリースが行ったのである。これまでに彼が手がけたオープン開催コース改造は、七つを数えるのである。バルタスロール、ベスページ・ブラック、ヘイゼルティン、バインハースト、ザ・カントリークラブ、トールバインと米国の名門ばかりを全米オープン開催前に改造を手がけているのだ。そこからついた彼のニックネームが「The Open Doctor」。

彼のバックグラウンドは、米国デザイナーの王道を行くもので、米国名門アイビリーグのエル大&ハーバード大を渡り歩きデザイン科生として2校を卒業。ハーバード大の交友関係も、その後のゴルフコース・デザイン・ビジネスの中で最大の武器となっているといっても過言ではない。コースデザインでは米国の名家であり、父・ロバート・トレント・ジョーンズもアイビリーグの1校であるコーネル大でランドスケープ・アーキテクチャー(造園空間設計)を学んだ。のちに球聖・ホビー・ジョーンズとも出会い、あのマスターズの舞台オーガスタ・ナショナルの改造も1947年&1950年に手がけている。

設計家達には必ず『設計理念』があるが、ジョーンズ一家には先代のロバートから受け継いだモノがある。それが『no risk, no reward』。危険を冒してまでも狙わなければ、ご褒美はいただけない。という理念である。やはりこの一家の理念にはオーガスタ・ナショナルのパー5が基本理念になっていると考えさせるコースデザインが多いのだ。そんな名家の次男坊が今回手がけるコングレッシュショナルは最終ホールの名物のパー3だったが、危険を…の理念

通り、従来の難関17番を最終ホールへと変更する。パーディーもあればダブル、トリプルボギーもあり得る最終ホールとなる今年の全米オープンは、絶対に見逃せない。

最後にトリビアを。現在クロウズとして改造中の関西の名門・茨木カントリー(西コース)は日本の「The Open Doctor」匠の井上誠一デ



パブリックながら名門として名を馳せる
ベスパページのブラックコースも彼により改良されている

ザインで2グリーン。その改造をリース・ジョーンズ、彼の手に委ねられ1グリーンのコースとして生まれ変わるのだ。過去に、日本オープン、日本女子オープン、アジア・パナニック・オープンとオープン開催コース。米国だけでなく世界で彼が「The Open Doctor」と認められる日は近いかもしれない。